

浮世絵師

歌川国芳展



上:《金魚づくし 酒のざしき》部分 / 下:《朝比奈小人輪遊》部分 (後期展示)



まもなく開幕！

開会式情報・主要作品解説・国芳ふせんプレゼント
企画について情報を追加しました。

会 期:平成27(2015)年

9月11日(金)～10月18日(日)

会期中無休

前期展示:9月11日(金)～9月27日(日)

後期展示:9月28日(月)～10月18日(日)

開館時間:9:00～17:00

※金曜日は20:00まで ※入館は閉館30分前まで

※9月11日は10:00開場

料 金:一般 1100円 (900円)
高・大学生 700円 (500円)
小・中学生 400円 (200円)
※()内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

※本展は都合により「江戸の劇画家 歌川国芳の世界展」から名称を変更しています。

【開会式について】

次の通り、「浮世絵師 歌川国芳展」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

日時／平成27年9月11日(金)午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

1 開会の辞

2 主催者紹介・挨拶（主催者全員を紹介ののち挨拶）

- ・広島県立美術館 館長 千足 伸行(紹介・挨拶)
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則(紹介のみ)
- ・中国放送 代表取締役社長 畑矢 健司(紹介のみ)
- ・イズミテクノ 営業本部長 古川 貴敏(紹介のみ)

3 協賛者紹介

- ・広島県信用組合 様
- ・リベラ株式会社 様

4 来賓紹介

- ・国際浮世絵学会常任理事 中右 瑛 様(紹介のみ)

5 テープカット

- ・国際浮世絵学会常任理事 中右 瑛 様
- ・広島県立美術館 館長 千足 伸行(紹介・挨拶)
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則(紹介のみ)
- ・中国放送 代表取締役社長 畑矢 健司(紹介のみ)
- ・イズミテクノ 営業本部長 古川 貴敏(紹介のみ)

6 閉会の辞

司会／中国放送アナウンサー 中根 夕希

【展覧会概要】

奇想天外！幕末ポップスター

浮世絵師・歌川国芳(1797-1861)は、その斬新な表現とユーモアにより、国内外で高い評価を得ています。中国の歴史小説に登場する英雄を迫力満点に描いた出世作「水滸伝」シリーズや三枚続きのワイド画面に巨大な骸骨や鯨たちがダイナミックに躍動する武者絵。猫や雀、金魚など身近な動物を愛らしく擬人化した戯画に、洋風の遠近法や陰影法を取り入れた風景画など。代表作から希少な肉筆画の里帰り作品まで、約200点(うち前後25点展示替え予定)により、幕末の江戸で喝采を浴びた奇想天外な世界をご紹介します。

【みどころ！】

Point 1

躍動する想像力

—武者絵の国芳あらわる！—

物語の始まりは文政10(1827)年、無名の絵師による「通俗水滸伝」シリーズの刊行から。折からの「水滸伝」ブームを背景に、その登場人物一人ひとりをはじめて錦絵化するという試みは、人々の想像をはるかに超えた迫力が話題となって、またたく間に大成功を収めます。

不遇の日々から一転、「武者絵の国芳」と称される人気絵師へと躍進した国芳。水を得た魚のごとく、活力あふれる武者絵を次々と送り出し、三枚続きのワイド画面でも卓越した画才を発揮します。



歌川国芳《坂田怪童丸》
天保7(1836)年頃



歌川国芳《宮本武蔵と巨鯨》
弘化4(1847)年頃(前期展示)

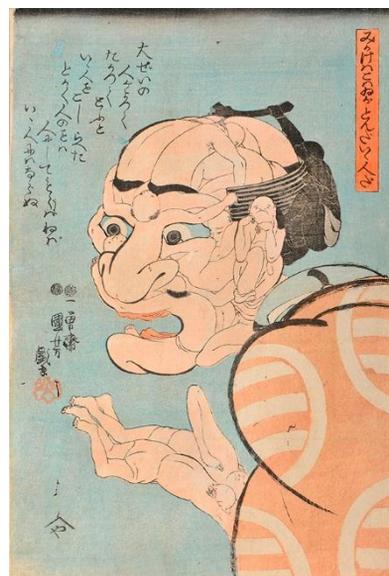
Point 2

笑いとユーモア

—愛すべき江戸の住人たち—

天保12(1841)年、老中・水野忠邦による「天保の改革」断行。財政再建と称して各界に押し寄せる綱紀肅正の波は浮世絵界にも届き、役者や芸者・遊女を描くことや豪華な色摺を行なうことなどが禁じられました。幕府への反骨を笑いに変えて風刺する国芳の作品は、いつしか庶民の声を代弁するものとされ、大いに賞賛されました。

武家社会を鼻歌まじりに茶化しては幕府を煙にまいた国芳。ユーモアあふれる発想は、「寄せ絵」や「戯画」など多彩な遊びを生み、江戸っ子たちに笑いと活気をもたらします。



歌川国芳 《みかけハコハみがとんだいゝ人だ》
弘化4(1847)年頃(前期展示)

Point 3

西洋との出会い

—幕末の狂騒を生きた絵師—

黒船を率いるペリーが開国をせまって風雲急を告げた嘉永6(1853)年、それから6年後の安政6(1859)年、ついに横浜が開港します。期待を胸に膨らませて横浜の風景を描いた国芳ですが、それが生涯最期の仕事となりました。

多くの弟子を率いた浮世絵界の重鎮・国芳は、早くから西洋の陰影法や遠近法を巧みに取り入れています。花火や虹、雨や雲、月や星など、日本の文化・自然を風景に描きつつ、洋風表現の実験をすすめて、歴史や空想上の人物にも確かな存在感を与えています。



歌川国芳
《誠忠義士肖像 大星由良之助良雄》
嘉永5(1852)年



歌川国芳
《近江の国の勇婦於兼》
天保初期(1831~33)頃
(前期展示)

【主要作品解説】

《相馬の古内裏》

弘化2～3(1845～46)年ごろ（後期展示）

当時のベストセラー小説をもとに、妖術で骸骨を操る平将門の娘・滝夜叉姫と源頼信の家臣・大宅太郎光国の対決場面を絵画化する。原作小説では数百の骸骨が現れるところ、本作では巨大な骸骨となっており、丁寧に施された陰影が不気味さを増す。光国を覗き込む姿もなめらかで、今にも襲い掛かる様子は臨場感に満ちている。空想の世界を絵画化する国芳の想像力が如何なく発揮された作品である。



《猫のすゞみ》

天保末(1841～43)年頃（前期展示）

両国橋を背景とする隅田川での夕涼み場面。国芳は、人物の姿を豊かな表情を示す猫に置き換えた。着物の柄に注目すると、舟に乗り込もうとする芸者には花の一部にアワビやウナギ、手を差し伸べる船頭には碇を模したタコ、芸者を待ちかねる旦那には小判で、それぞれのキャラクターがわかる。また、タイトルを囲うのはわら縄で縛った鯉節で、猫好きで知られた国芳ならではの作品である。



《みかけハこハゐがとんだいゝ人だ》

弘化4(1847)年頃（前期展示）

「寄せ絵」と呼ばれる戯画の一種で、複数の人間が集まって、大きな人物の顔や手を表現する。背中に背負う三つ引両紋は、数多くの伝説を持つ鎌倉時代の武将・朝比奈のものである。後頭部の髻の一部となっている黒色の人や、手を表現する長い腕を持つ人の姿は、朝比奈の島巡り話に登場する人物であり、作品を読み解くためのヒントが巧みに仕掛けられている。



《東都三つ股の図》

天保初期(1831～33年)頃（後期展示）

隅田川の下流、永代橋越しに佃島までを望む三股の河岸。手前の浜辺では職人たちが舟を燻し、水上では漁をする人の動きにあわせて舟が傾く一瞬を描く。視点の低さは国芳のまなざしであり、洋風の遠近法などを駆使して江戸庶民の日常を描いた風景画シリーズの一点である。また、遠景の町に一際高くそびえたつ櫓は、近年「スカイツリー」になぞらえて注目を集めた。



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

【関連イベント】

記念講演会「江戸の劇画家 国芳の時代」(共催 広島県立美術館友の会)

日時:9月12日(土)13:30~14:30

場所:地下講堂(定員 先着200名)

講師:中右瑛(本展監修者、国際浮世絵学会常任理事)

※聴講無料。事前申込は不要です。

※受付は13:00から

ワークショップ「フィギュアで楽しむ国芳キャラクター」(協力 泉美術館)

日時:10月10日(土)13:30~15:30

場所:地下講堂(定員 先着20名)

講師:松尾真由美(広島市立大学芸術学部講師)

対象:小学生以上

※参加無料。事前申込が必要です。当館までお電話にてご連絡ください。(当館082-221-6246)

※受付は13:00から

美術講座「国芳の魅力を探る」

日時:9月27日(日)13:30~14:30

場所:地下講堂(定員 先着200名)

講師:隅川明宏(当館学芸員)

※聴講無料。事前申込は不要です。

※受付は13:00から

学芸員によるギャラリートーク

日時:毎週金曜日 ※9月11日を除く

11:00~ 9/18、10/2、10/16

18:00~ 9/25、10/9

※聴講無料。入館券をお求めの上、会場入口でお待ちください。

ウェブ・レポーター大募集!

日時:9月11日(金)18:00~19:30

場所:3階ロビー

対象:インターネットを通じて本展PRにご協力いただける一般の方。

※実施当日に限って本展にご招待します。

【奇想天外!国芳ぬりえに挑戦!!企画】

当館ホームページからぬりえをダウンロードし、完成させて当館1階受付までご持参ください。当日料金から200円引きで本展をご鑑賞いただけます。



【奇想天外！国芳ふせんプレゼント企画】

本展の開催を記念して、国芳の描いた奇想天外！な猫をモチーフにした「奇想天外！国芳ふせん」を下記の日時限定で配布いたします。他では手に入らない限定グッズです。

会期中の金曜日 17:00～ 先着20名様にプレゼント！

会期中の土日祝 9:00～ 先着30名様にプレゼント！



【同時開催】(2階展示室)

7月4日～9月27日 日本とアジアの工芸作品一つながる心 平和の礎

9月20日～1月6日 美の競演—京都の美へのオマージュ

9月30日～1月6日 新しい仲間たちを紹介！—平成26年度に収集した作品を中心に

【開催概要】

展覧会名称

浮世絵師 歌川国芳展

展覧会英語名

KUNIYOSHI Show : UKIYO-e Artist of the Edo

キャッチコピー

奇想天外！

料金

一般 1,100(900)円 高・大学生700(500)円 小・中学生400(200)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所

広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンコード: <http://7ticket.jp>)、ローソン(Lコード 69130)、広島市・呉市内の主なプレイガイド・画廊・画材店、ゆめタウン、フジ、中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)など

開催クレジット

主催 広島県立美術館、中国新聞社、中国放送、イズミテクノ

後援 広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7

協賛 広島県信用組合、リベラ

企画協力 アートワン

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 隅川明宏、事業推進課 山本恵子